

▼ストーリーについて

うらじゃの起源となる、温羅が吉備国に技術を教え、温羅に対する感謝の舞いを奉納する祭りが「うらじゃ」という部分を軸にした物語。

鬼が持つ強さである「与えること」にフォーカスし、強さの種類を伝える絵本。

▼登場人物

- ・オオゾラ（小学校１年生・主人公）
- ・ハレタ（小学１年生・オオゾラのことをからかう友達）
- ・ウラ（優しい赤鬼）

▼ストーリー・流れ

1.

学校でのシーン。

主人公のオオゾラは同級生のハレタにからかわれ、落ち込んでいる。

ハレタは成績も良く、運動神経も得意で、いつも先生に褒められている。

それに比べてオオゾラは運動も勉強も苦手。

2.

学校の帰り道、落ち込むオオゾラがボーッと歩いてると、通学路外の場所にきてしまう。

そこで不思議な洞窟を見つける。

3.

「温羅の道。」と書いている看板があるが、漢字が読めないオオゾラ。

ゆっくりとその洞窟に入る。

4.

洞窟に入ると視界がぐにゃっとまがり、吸い込まれる感覚になる。

(おむすびころりんの、穴に落ちるシーンのイメージ)

5.

気づくとオオゾラは知らない場所にいる。

吉備国 (現岡山県) にタイムスリップしてしまった。

6.

赤鬼のウラと出会う。

初めは怖がるオオゾラだが、ウラの優しさに気づき、ウラを信用する。

7.

ウラに世話をしてもらおうオオゾラ。

- ・仕事を教えてもらって手伝う
- ・ケガをしてウラに手当てしてもらおう
- ・ご飯を作ってもらおう
- ・家事を教わり手伝う

(ウラとの生活シーン)

8.

宴の日。

ウラと宴の準備をする。

・ダンスをおぼえる

・鬼メイクをする

(宴準備シーン)

9.

宴がはじまる。

いろんな鬼たちと楽しく踊るオオゾラ。

「飲めや踊れや夜更けまで♪」

(うらじゃの歌詞にそって踊るシーン)

10.

宴が終わり、ウラとオオゾラが話すシーン。

オオゾラが、弱い自分に自信がないことをウラに伝える。

ウラ「オオゾラ、強い人とは、分け与えることができる人だよ。技術や、食べ物、優しさだって分け与えられる。それができるのが強さだ。」

オオゾラ「そうか ... ! 強さにはいろんな種類があるんだね」

鬼の世界でオオゾラに沢山のことを与えてくれたウラとの生活を思い出し、強さについて考えるオオゾラ。

11.

ウラの家で眠り、朝が来た。

自分の世界に戻り頑張ろうと決心するオオゾラ。

ウラにお礼を言い、この世界と繋いだ洞窟に向かう。

12.

深呼吸し、洞窟に入る。(現代にワープシーン)

13.

現代にもどる。

時間はオオゾラが洞窟に入った時から 1 時間しか経ってもなく、心配して探しにきたお母さんに怒られる。

14.

家に帰る帰り道、オオゾラはウラの言葉を思い出す。

夢だったのかな ... と思うが、ウラが手当てをしてくれた、キズを見つけて、夢じゃなかったんだと思うオオゾラ。

15.

次の日学校に行くオオゾラ。

体調が悪そうなハレタ。ハレタが得意な体育の時間、転けてしまう。

ハレタはいつも周りの友達をからかっていたため、誰も助けてくれない。辛くなって涙ぐむハレタ。

ハレタに駆け寄るオオゾラ。肩をだき、保健室に連れていく。

ハレタ「ありがとう ...」

優しさという強さを認められるオオゾラ。

16.

時間が経過した未来。

現在のうらじゃのシーン。

あのときの鬼に感謝の気持ちでうらじゃをつくった、成長したオオゾラ。

おしまい。